

令和7年度 県立つくばサイエンス高等学校自己評価表

目指す学校像	科学技術やデータサイエンスに関する探究活動を通して、次世代の科学技術や現代社会の課題解決をする人財を育成する学校 大学や企業、研究機関との連携を通して主体的かつ協働的な学びを推進する学校			
三つの方針	具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	次世代の科学技術や社会の担い手として、未来を切り開く人財の育成を目指す。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	幅広い学問分野への知的好奇心、探究心を育み、進学後の学びの基礎を築く教育課程を編成・実施する。		
	「入学者の受入れに関する方針」(アドミッション・ポリシー)	科学や現代社会への知的好奇心、探究心をもち、未来を創り社会を変える志のある生徒を求める。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・学習面では、ICT機器等の活用をとおして各教科の特性を生かしながら基礎学力の向上に努めた。また、授業改善のための定期的な研修を行った結果、生徒からの授業評価では、高い評価を得られた。 ・四年制大学進学に向けて生徒の個に応じた学習指導を継続して実践する。 ・科学国際セミナー等の講演をとおして、生徒の専門領域への関心を高めることができた。今後は普通科を交えた横断的な授業体制を構築する。 ・文化祭やスポーツフェスティバルなどの学校行事では、生徒の積極的な参加が認められた。今後も、生徒の主体性を伸ばす取り組みを継続していく。 ・「高等学校DX加速化推進事業」により、先進校の視察や、教材のデジタル化により、校内のデジタル化を推進することができた。 ・学校説明会に加え、職員全員で近隣中学校を訪問するなど、本校の目指す学校像についての説明に努めたが、定員の確保に至らなかった。今後も、本校の特徴を積極的にアピールしていく。 	1 学習指導の充実	① ICT機器を有効活用し、個別最適な学習指導や協働学習の充実に努める。 ② 年間指導計画に則り、目標に準拠した適切な観点別評価を実施し、常に指導の見直しを行う。 ③ 主体的・対話的で深い学びを目指した授業を探究し、生徒一人一人に応じた思考力・判断力・表現力の育成に努める。	A	
	2 進路意識の高揚と進路希望の実現	④ 授業や学校行事等あらゆる機会を通して、進路に対して考える機会を設け、進路意識の高揚を図る。 ⑤ 生徒の課題解決能力の育成のため、大学・研究機関との連携を深化させる。 ⑥ 4年制大学進学をめざす系統的、段階的指導を確立する。	B	
	3 特別活動等の充実	⑦ 生徒が特別活動に積極的に参画する仕組みづくりをし、生徒主体の特別活動の充実に努める。 ⑧ 国際理解教育やボランティア活動を通して、生徒に社会の一員としての自覚をもたせる。 ⑨ キャリアパスポートを活用し、特別活動での学びを整理することで、自己を振り返る機会を設け、キャリア形成の手助けをする。	A	
	4 働き方改革	⑩ 教職員のワークライフバランスの意識の醸成を図り、超過勤務時間を削減する。 ⑪ 定時退勤日、閉庁日の設定、年次休暇の取得を推進する。	B	
	5 授業改善の推進	⑫ 生徒の授業評価において授業満足度4点満点中、全教科平均3.5以上にする。 ⑬ 授業改善に向け、相互授業参観、他校視察、研究授業や師範授業の開催、校内研修等を推進する。	A	
	6 デジタル人材育成実施に向けた環境整備	⑭ デジタル教材の活用方法などの研修を通して校内のDX化を推進させる。 ⑮ AI教育事業を効果的に活用し、生徒のICT活用やAI活用能力の育成に努める。	A	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題

別紙様式 2 (高)

教科指導 (国語科)	国語の基本的な教養及び語彙を広げ、深める	デジタル教材の特長に応じた活用等、課題を充実させ家庭での学習習慣の獲得を目指し、高校生としての国語の基礎基本を身に付けさせる。①②④	B	B	・様々な文章の読み取りの向上を踏まえ、生徒自身の考えの深化や表現の習得につながるようにする。 ・個別最適な課題を提示し、家庭での学習習慣の強化を図る。
		「NIE NIE 蟬」を活用し、一般的な文章や表現を習得させる。①③④	B		
	文章の内容を理解する能力を養う	一般的な語句や言葉の意味を知り、活用する機会を充実させ、語彙力を向上させる。①③ 文章を読んで多くの考えに触れ、自己の思考との比較をさせる。①③	A		
			A		
	自己表現力を養う	各種文章の書き方を学び、時と場合に応じた文章で表現させる。①③	B		
	時事問題からの考察力及び社会に対する関心を養う	メディアリテラシーを踏まえつつ、web 記事やコラムから時事問題について考察させる。①③⑤ 他者の視点や考え方を知り、自分の考えと比較し深化させる能力を養う。③	B		
	授業満足度の向上	振り返りを通して、生徒の理解度を適切に見取る。②⑫⑬	A		
教科指導 (数学科)	数学的な基礎力の確立	I C T機器の活用により生徒の学習活動の効率化や質的向上、個別最適化を図り、数学への興味関心を向上させ、理工系学部進学への基礎となる知識や技能を定着・向上させる。①⑥⑭	B	B	・生徒の実態を踏まえ、個別最適な学びと、大学入学に求められる資質・能力および基礎学力の養成を両立させる指導手法を確立し、実践する。 ・授業と家庭学習の連続性を意識的に強化し、生徒の自律的な学習サイクルの確立を目指す。 ・生徒の興味関心と探究心を向上させる指導方法を検討し、授業実践に反映させる。
		少人数による習熟度別授業や、対象生徒を細分化した課外授業の充実によって個別最適な学びを促進し、生徒の実態を踏まえながら数学的な基礎力を確立させる。また、教科の目標や評価規準を綿密に共有し、計画的な教育活動を行う。①②⑫	A		
	高度な思考力・判断力・表現力の育成	平時の授業や長期休業中の課外授業等で発展的な内容を扱うことで、理工系学部進学に求められる高度な数学的思考力や判断力、課題解決能力を身に付けさせる。また、協働的な学びを促進し、他者との対話を通して自身の知識や考えを正確かつ明確に伝える数学的表現力を身に付けさせる。③⑥⑫	B		
	数学への興味関心の深化	教科等横断的な学びを促進し、物理や化学、工学などの科学分野と数学との関連性を理解させ、日常生活と数学との関連性を主体的に見出す姿勢や課題発見能力を育む。④⑥⑭	B		
	授業改善サイクルの確立	相互授業参観や教員研修を充実させるとともに、授業アンケートを定期的を実施することで、教師と生徒の双方向のコミュニケーションによる授業改善サイクルを確立する。⑥⑫⑬	A		
教科指導 (地歴・公民科)	基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得	I C T機器を活用し、個々の学習状況に合った課題に取り組みさせることで、基礎学力の定着や学習に取り組む意欲的な態度を育てる。①②③ 授業内容を社会問題や時事問題と関連づけて、自分事として学習できるよう工夫する。①③	B	B	・基礎的な学力の定着のため、小テストやアプリを活用する。さらに、基礎的な用語や概念を理解した上で、思考力や表現力を養う授業も展開しさらに工夫、改善を図る。
	学力の向上	授業内容を生徒の理解度に合わせて精選し、学力が定着するように努める。①②⑫ 基礎的な学力の定着だけでなく、応用問題にも対応できるような力を身に付けさせる。③④	A		
			B		
	進学指導の充実	総合型選抜入試や小論文指導などを、年次や進路指導部と連携して行い、合格率向上のための基礎力を養う。④⑥	B		
	授業改善の推進	各授業でタブレット等の I C T機器を効果的に活用し、教科横断的な学習を展開するように努める。①②⑫⑬	B		
教科指導 (理科)	生きて働く「知識・技能」の習得	高校で新たに学ぶ知識を、中学校までの既習内容と関連付けていくことで、理科の重要概念を理解できるようにする。また、大学入試に対応できるようにしていく。③⑥ 主張や根拠を効果的に表現できるようにするために、観察や実験を通して、器具の使い方や、表やグラフの活用方法を身に付けられるようにする。①③	A	A	・観察・実験の授業をより積極的に実施することで、生徒の思考力・判断力・表現力を育成する。
			B		

別紙様式 2 (高)

	未知の状況にも対応する「思考力・判断力・表現力等」の育成	観察や実験の充実や協働的な学びを通して、予想・仮説を設定し、データを考察して規則性や法則性を見いだす力を育成できるようにする。③④	B			
	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養	授業プリントや問題集等の活用を通して、生徒個々が取り組み方を調整できるようにする。②③	A			
	授業改善の推進	ICTや外部のコンテンツを活用し、授業の見直しを継続する。①④	A			
		前年度までに蓄積した授業や実験のプリントを改善し、理科教員間で共有する。⑩⑬	A			
教科指導 (英語科)	学力の定着・向上を図る	各年次・教科で基本的な語彙数を増やし、文法力を養う。 学習した表現を使った活動を通し、4技能の伸長を目指す。 小テストなどで確認し定着を図る。②③ 資格試験等を勧めるとともに、対策課外を実施する。⑥	B	A	・ALTの人数が増えたことで生徒の英語に触れる機会が増えた。English CaféといったALTによる課外活動も継続していく。 ・基礎学力を十分に培い、共通テストや模試に取り組みさせる。	
	国際人としての視野を養う	ALTとのTeam teaching等を通して、英語による言語活動の機会を増やし、英語を用いて積極的にコミュニケーションを図る態度を養う。③⑧	A			
		外国の文化や歴史、国際的な話題にできるだけ多く触れさせ、生徒の視野を広げ、コミュニケーション能力の基礎を培う。⑧⑨	B			
	授業改善の推進	デジタル機器を活用して、課題や小テストの実施・評価をする。①④	A			
教科指導 (家庭科)	生活者としての生きる力を身に付ける	生活の主体者という自覚をもたせ、ライフプランニング・キャリアプランニング力を高める。⑦ 安全かつ健康に生活していくための知識と技能について体験や実験実習を交えて学習する。①③	A	A	・教科横断授業を充実させる。 ・授業や実習の振り返りを効果的に行う。	
	学習指導の充実	学習の見直しをもたせ、主体的・対話的に取り組める学習展開を工夫する。①②③	B			
	授業改善の推進	ICTや外部のコンテンツを有効活用する。①④	A			
教科指導 (保健体育科)	基礎体力の向上 運動技能の向上	基礎体力の重要性を理解させ、体力を高める運動を実践する。③ 各単元の基本的な運動技能について能力に合わせた指導を行う。③ ゲーム形式の学習を通じて身に付けた運動技能を向上させる。③⑩	A B A	A	・体力、運動に対する意識等の二極化が進んでいるため、体力・技能の向上を、継続する。 ・自らの健康問題を改善するための生活習慣の見直し、授業で取り上げ実践させていく。	
	健康問題の解決	保健の授業で様々な健康問題を取り上げ、その解決法を考えさせる。③ 健康や安全についての理解を深め、自らの健康を適切に管理、改善する能力を育てる。③	A B			
	授業改善の推進	ICT教材を活用することでより深い知識を身に付けさせ、課題解決する力を習得させる。①④	A			
教科指導 (芸術科・美術)	学習指導の充実	生徒の興味・関心に沿った題材設定と、実態に合わせた指導を行う。①②③⑫ 創造的な表現や物事の造形的な見方・考え方を身に付けさせる。②③ ICTを積極的に取り入れ、題材設定と授業形態の工夫を行う。①⑬⑭⑮	A B A	A	創造的な制作時間の確保をし、学習環境の整備を行う。	
	進路指導の充実	学校や学級に愛着をもてるような制作活動や展示を行う。③⑫ 作品制作において、言語活動を通して改善や向上の意識を育てる。③⑮	A A			
	特別活動の充実	自己分析と課題発見の場とするために、公募展やコンクールに積極的に参加させる。③④	A			

別紙様式 2 (高)

		他者の視点に立って考える機会を設け、公共の精神を養う。③⑤	A			
	授業改善とデジタル人材の育成	ICTを積極的に取り入れ、課題回収や成績処理の効率化を図る。①⑩⑪⑬	A			
		生徒の学習環境を整え、授業や部活動をより効率的に実施する。①⑩⑪	B			
教科指導 (情報科)	学習指導の充実	情報社会と人との関わりを意識した題材の設定と、生徒の実態に合わせた指導を行う。②③⑫	A	B	P-TECHやAIカリキュラム事業において、最先端の情報技術を授業に取り入れることができた。より一層データを活用した思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	
		授業・実習を通じたICTの活用、デジタルコンテンツ等の有効活用を図る。①	B			
	情報活用能力を高める「思考力・判断力・表現力等」の育成	演習や体験活動といった協働的な学びを通して、予想・仮説をし、データを考察して規則性や法則性を見いだす力を育成できるようにする。③⑭	B			
	進路意識の向上	教科等横断的な学びを促進し、数学や理科、工学などの科学分野と情報との関連性を理解させる。日常生活から情報の学びを主体的に見出す姿勢や課題発見能力を高め、進路意識の高揚につなげる。④⑥⑮	B			
教科指導 (理数科)	探究方法の習得	探究活動を行ううえでの課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現それぞれの過程について実際の活動を通して習得させる。①③⑮	A	A	生徒が社会課題を身近に感じられる内容の実習課題を設定する。	
	授業改善の推進	ICTを活用し、資料作成、授業展開等の効率化を図る。①⑩⑭⑮	A			
教科指導 (工業科・科学技術)	進学指導の充実 学力の育成	総合型選抜入試や小論文指導などを、年次や進路指導部と連携して行い、合格率向上のための基礎力を養う。④⑥	B	B	実習や課題研究発表会については、内容や時期の見直しを行い、より良いものにブラッシュアップしていく。 領域選択や各種講演会についてアンケート等の結果を踏まえてスケジュールの調整をする。	
		授業・実習を通じたICTの活用、デジタルコンテンツ等の有効活用を図る。①	A			
	学習活動の改善	授業・実習及び探究活動を通じた知識・技術の定着を図る。③	B			
		授業・実習を通じた課題解決型学習の実践をする。②③	B			
	外部連携の推進	授業・実習を通じた教科等横断的な学びを充実させる①③	B			
		科学国際セミナーなど校内外での研修・研究活動を通し、見聞を拡大する。④⑤⑥	B			
	授業改善の推進	授業満足度向上のため、授業アンケートの積極的活用をする。⑫⑬	B			
		ICTを活用しての授業改善を実施する。⑫⑬	B			
校務分掌 (教務部)	入学希望者の確保	事業戦略部と学校説明会の企画・運営の連携を行い、中学生に魅力を伝えられるようにする。⑥	B	B	・本校の魅力について、様々な手法でこれまで以上に発信する機会を増やす。 ・年間・月間行事予定表の作成について、各部署と協議して、円滑に努める。 ・ICT活用について、さらに情報にアクセスできるように工夫する。	
	学校運営の円滑な実施	定期考査・特編授業の時間割や年間、月間行事予定表の作成し、見直しをもって業務にあたれるようにする。②⑤	B			
			各部署との連携により、学校運営を円滑に運営する。①④⑤			B
			教科用図書、副教材、教具等の準備を行い、業務の円滑化を図る。①			A
	公簿・表簿等の作成、整理	学校要覧、指導要録等の作成・管理を適切に行う。⑩	A			
	出席簿、学級名簿の作成・管理を適正に行う。⑩	A				
	働き方改革の推進	ICT活用により、校内情報を整理し、情報へのアクセス時間を向上させる。⑩	B			
校務分掌 (進路指導部)	進路意識の高揚	外部模試を実施し、生徒が努力すべき所を把握して、生徒の意識を向上させるよう努める。(年4回以上)④	A	B	・各年次との連携を深めて進路指導を進める。 ・模試の分析会への参加者を増やし、教科や年次で活用する機会を増やす。 ・進路行事を計画的に実施して	
		大学見学会の実施やオープンキャンパスを案内し、早くから広い知見を得られるよう指導する。⑤④	A			
	進路希望の実現	確かな学力を身に付けるための課外授業を実施する。⑥	A			
		生徒データの共有を図り、効果的な指導を行えるよう、研修を行う。⑥⑬	B			
	年内入試にむけた課外や個別指導の体制を充実させる。⑥	B				

別紙様式 2 (高)

	働き方改革	外部業者の積極的活用による業務負荷の軽減を図る。⑩ ICT 活用による進路情報を公開し、必要な情報に必要な時にアクセスできるようにする。⑩	B B		いく。
校務分掌 (生徒支援部)	学校生活における安全確保	貴重品及び自転車等について管理施錠の徹底を図り、生徒個人の物品管理に対する意識向上を図る。⑦	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重品の扱いを徹底して管理・指導していく。 ・各年次やクラス、教員間で生徒指導における差異が生じないよう教員への周知徹底をより強化していく。 ・どんな些細なことでも、教員が一人で抱え込むことがないよう、さらに多くの教員で共有できる組織・仕組みを構築していく。
		各種講演会を実施し、事件や事故に関する注意喚起と予防を図る。⑦	A		
		校内・外の巡回を定期的に行い、生徒の問題行動・交通事故の未然防止に努める。⑦	A		
		学期ごとに自転車点検を実施し、登録番号・施錠の確認をすることで盗難防止と車両管理の重要性を意識させる。⑧	B		
		バイク・自転車通学者に対して安全指導を行い、交通安全の重要性を認識させる。⑧	B		
	高校生さわやかマナーアップの実践	挨拶運動を通して生徒と教員間の関係性を深め、公的な場所における、マナーや身だしなみの必要性を考えさせる。⑧ 校内ルールを相互に確認し合いながら、清潔感のあるクラス経営と担任・副担任と生徒間の交流を深めながらマナー向上を目指す。⑧	B B		
マナー・モラルの向上と校外の連携	身だしなみの改善について保護者や年次団との連携をとりながら指導内容の充実を図る。⑨	A			
	職員と連携を図り、PTA 総会・三者面談等において保護者への協力を依頼しながら生徒のマナーやモラルの向上を図る。⑨	B			
校務分掌 (環境厚生部)	安全管理・安全教育の推進	防災訓練・講話を実施し、災害時の適切な行動や安全に対する知識の習得を目指す。⑦	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃用具等の補充に関する経費削減と在庫確認について常に共有を図る。 ・安全点検に関する、先生方への周知を徹底の仕方について。 ・健康診断の実施方法について。
		防災計画を立案して、学校全体の安全管理を徹底すると共に、定期的な安全点検により学校施設・環境の安全確保に努める。⑦	B		
	「健康づくり」の推進	健康診断により自分自身の健康状態を把握させ、自らの健康を管理する能力を養う。③	B		
	学習環境の整備	清掃の徹底とゴミの分別を推進する。⑦	B		
学習環境改善のため、火元責任者との連絡体制を整え、修繕箇所等の放置がないように努める。⑦		B			
校務分掌 (図書視聴覚部)	図書館利用の促進	生徒のおすすめ本を紹介する展示コーナーを作る。①⑦	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・書委員の生徒が責任をもって仕事に臨むことができるよう、Classroom 等を利用して声がけをする。 ・研修会に参加して、さまざまな刺激を受ける(教員も生徒も)。また蔵書の質的向上と資料管理の効率化を図りたい。(既存蔵書の利用状況に基づいた計画的な除籍と購入を実施する)
		新着図書やテーマ展示の情報を効果的に発信する。③	B		
		図書館の使い方を紹介するオリエンテーションを生徒向けに実施し、利用促進を図る。③	C		
	読書環境の整備	積極的に教職員にも声がけをし、図書館を授業等での活用の機会を増やす。④⑬	B		
		生徒からのリクエスト図書を積極的に受け入れる。③	A		
		最新の話題書や生徒の興味関心に合った図書を積極的に購入する。③	A		
		ポップや装飾を活用し、季節感やテーマに合わせた展示を行う。⑦	B		
	委員会活動の活性化	図書の貸出や蔵書の管理業務を習熟させ、主体的に委員会活動が行えるように指導する。③⑦	B		
		図書委員向けの研修会に参加して、他校と情報を共有する。⑦⑬	C		
校務分掌 (特別活動部)	生徒が主役になる特別活動の充実 ホームルーム活動の推進	生徒が主体となった学校行事の企画・運営を通し、生徒の自主的・実践的な態度を育てる。⑦	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事は生徒主体で進めることができた。一方で、文化祭や生徒会役員選挙の実施時期の変更、野球応援の参加任意
		ホームルーム活動や生徒会活動を通し、生徒一人一人に自覚と責任感を培う機会を与える。また、生徒相互の連帯感を深める。⑦	A		
		「キャリアパスポート」を活用し、生徒の自己実現につなげる。⑨	A		

別紙様式 2 (高)

	生徒会活動の推進	委員会活動を活発化するために、活動内容・活動時期等の見直し等を含め、体制を学校全体で考えて取り組む。⑦	B		化、国際交流行事に関する業務の新設等に伴い、教員の負担が増加してしまったため、業務内容の見直しが課題である。
	働き方改革の推進	特別活動に関する業務内容の見直し改善を図り、適切な役割分担と業務の効率化により教職員の負担を軽減する。⑩	B		
	国際理解教育の充実	外部のプログラムを活用して生徒の国際理解を深め、豊かな国際感覚の涵養を目指す。⑧	B		
校務分掌 (渉外部)	PTA 活動の見える化	各行事の活動に広報活動を積極的に取り入れ、web ページ等を通して見える化を図る。⑩⑪	B	B	・PTA 不加入者の増加を受けて組織を見直した。今後は、新しい体制のもとで、保護者が参加しやすい環境づくりを進めていく。
	PTA 保護者会員との情報共有	各行事やイベント等を通して、保護者会員との情報共有を図ると共に、生徒支援に取り組む。④⑧	B		
	PTA 組織の改編	P T A 会員・役員の減少にともない、組織構成の見直しを図る。⑩⑪	B		
	100 周年事業の準備	100 周年事業に向けて、PTA 会員と連携し、準備を遂行する。 ⑩	B		
校務分掌 (情報管理部)	I C T を利用した授業の推進	I C T 機器、コンピュータの整備、システムの活用に関する研修会を行う。①⑬⑭⑮	B	B	・教育支援システムの整備を分散化し、運営の円滑化を図る。 ・視聴覚教材のさらなる拡充を図る。 ・校内ネットワークのセキュリティ対策を明確にし、職員・生徒個々への啓蒙に努める。
		職員の I C T スキルアップを促進する。①⑬⑭⑮	B		
	視聴覚部門の充実と運用	行事等における視聴覚機材を整備し、運用方法を確立する。①⑦	B		
	教育支援システムの維持管理と活用	教育支援システムの円滑な運営と活用ができるように計画し実施する。⑩	B		
	情報機器の整備とその運用の活性化	情報機器、校内ネットワークの整備を行い、有効利用を図る。①⑭	A		
個人情報保護やウイルス対策など、セキュリティ対策を実施する。⑬		B			
校務分掌 (事業戦略部)	科学的素養の育成	各種連携（産学・中高・高大）の連絡・調整・企画・実施、講演会の企画・実施、総合的な探究の時間の充実、STP の実施などに努める。 ④⑤⑥	A	A	・年度当初から講演会等を開催できるように計画を立てていく。
	外部への発信	生徒の様々な取組みを学校ホームページ、スクールガイド等で発信する。 ④⑤⑬⑭⑮	A		
年次指導 (第 1 年次)	基本的な生活習慣の確立	生徒が自ら考える力を持ち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。③⑥⑦⑩	A	B	・進路実現に向けた準備の年次として、生徒の意識の向上とより具体的な進学意識をもてるような取り組みを行う。 ・手帳活用について購入時期や初期指導、定期的な指導を実施する。 ・身だしなみや生活態度に関する継続的な指導を実施する。
	学習習慣の定着	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、「Classi」や「スタディーサポート」を活用し、学習習慣の定着を図る。①③⑭	B		
		教育支援ツールの積極的な活用により、タブレット端末の利用促進に努める。①⑦⑭	A		
	キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施する。③⑦⑧⑨	B		
		「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。④⑥⑨	B		
授業改善と効率化	I C T を積極的に活用し、年次団や各教科の連携を密にとり、業務の効率化と改善を図る。①⑨⑩⑪⑫⑭	A			
	相互に授業参観・研究を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。②⑫⑬	B			
年次指導 (第 2 年次)	基本的な生活習慣の確立	生徒が自ら考える力を持ち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。③④⑦	A	B	・年度を通して、年次全体で学習習慣の定着と基礎学力の定着をより一層図る。 ・様々なツールを駆使し工夫をしながら、生徒一人一人のニーズに合わせた目標設定にフォーカスする。
	希望進路に合わせた学力の獲得・デジタル人材の育成	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、Classi をはじめとした教育プラットフォームを活用し生徒の学習状況を把握し適切な指導を行う。①③⑭⑮	B		
		外部模試をはじめとした学習目標を生徒に提示し、学習への継続的な意欲を喚起する。①③	B		
		Classi note 等の教育支援ツールを授業や特別活動に活用し、タブレット端末の利用促進に努め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。①⑥⑦⑭	B		
	キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施し、生徒に課題を発見	A		

別紙様式 2 (高)

	立	し解決する過程を体験させる。③④⑤⑦⑧			
		「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑨	B		
	授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し年次団での連携を密にとり、業務の効率化を図る。⑨⑩⑬⑭	A		
		相互に授業参観・研修を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。③⑫⑬	B		
年次指導 (第3年次)	基本的な生活習慣の確立	生徒が自ら考える力を持ち、集団・社会の一員として自覚をもった生活を送れるよう支援を行う。④⑦⑧	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路決定へ向け分掌等と連携をし、特別編成授業や模試等を実施する。 ・進路活動に関わる部分について、さらに議論を重ね連携を深めていく。
	希望進路合わせた学力の獲得・デジタル人材の育成	日々の予習・復習をする習慣を身に付けさせるとともに、Classiをはじめとした教育プラットフォームを活用し生徒の学習状況を把握し適切な指導を行う。①⑭⑮	A		
		希望進路の実現という目標に向け、生徒の学習への継続的な意欲を喚起する。③④⑥	A		
		Classi note等の教育支援ツールを授業や特別活動に活用し、タブレット端末の利用促進に務め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。①②③⑭⑮	A		
	キャリア形成のための素地の確立	社会形成能力や自己分析力といったキャリア形成に必要な力を育てる特別活動を実施し、生徒に課題を発見し解決する過程を体験させる。⑤⑦	B		
		「キャリアパスポート」を活用し、目標設定から評価・改善までのサイクルを身に付けさせる。⑤⑨	B		
	授業改善と効率化	ICTを積極的に活用し年次団での連携を密にとり、業務の効率化を図る。①⑥⑩⑪⑭⑮	A		
相互に授業参観・研修を行い、生徒の実態把握と授業改善に努める。②③⑫⑬		A			